サマースクール2016　7月19日（火）

7月19日 院生発表会

会場	103室	104室	105室	106室
	R1（日本語）	R2（日本語）	R3（文学）	R4（社会・歴史）
（司会	望月　圭子	谷口　龍子	村尾　誠一	友常　勉
15:15 ｜ 15:45 報告①	ローレンス　ニューベリーペイトン 東外大 **「日本語母語話者の誤用からみた「の」と対応する英語の前置詞」** 本発表の目的は、日本語母語話者によくみられるofの誤用要因を探求することにある。 具体的には、学習者コーパス中の「NP$_1$＋PP＋NP$_2$」で、どのような名詞特性が、ofの誤用と関連しているのかを考察する。分析には、Pustejovsky (1995)による名詞の特性を記述する「クオリア構造」理論を用いる。 分析結果として、日本語母語話者は前置詞を選択する際、英語名詞の「クオリア構造」のconstitutive role（内的構成）を重視し、telic role（目的・機能）やagentive role（成り立ち）を比較的考慮しない傾向が観察された。Telic roleとagentive roleはそれぞれ前置詞for/atとfromに関連しており、これらの前置詞の誤用も、同様の要因によると思われる。 日本語には、英語の前置詞に相当する形式の使い分けがなく、ofの過剰使用には、日本語の「の」からの「不の転移」と思われる誤用例もある。また、日本語の「「格助 詞」＋の」という形式が、ofの誤用に影響すると推測される。 本発表では、正用コーパスも用いて分析結果を検証する。	南　紅花 東外大 **「現代日本語の自他両用動詞について—和語を中心に—」** 日本語の動詞研究の一部として、自動詞・他動詞についての研究は長い間にわたってなされてきた。多くの動詞は自動詞、あるいは他動詞に属するが、自動詞用法と他動詞用法を兼ねて持つ動詞も少なくない。「水かさが増す／水かさを増す」などのように、ひとつの語が自動詞用法と他動詞用法を共に有する場合もあり、語彙的な意味もあまり変わらない。一方、「風が吹く／笛を吹く」のような、主体や対象に立つ名詞が一致しない用例も多くみられる。 本発表では、修士論文の一部分の結論をまとめたものである。いわば、「自他両用動詞」と呼ばれる動詞群について、和語動詞を中心に実際の用例に基づき、考察を行う。まず構文の面から、自動詞用法と他動詞用法との文型の対応の有無、また文型の有様を考察し、分類を行う。また意味の面から、自動詞用法と他動詞用法において、語彙的な意味に共通性が見られるかどうかを考察し、分類を行う。本発表では、修士論文の一部分の結論をまとめたものである。いわば、「自他両用動詞」と呼ばれる動詞群について、和語動詞を中心に実際の用例に基づき、考察を行う。まず構文の面から、自動詞用法と他動詞用法との文型の対応の有無、また文型の有様を考察し、分類を行う。また意味の面から、自動詞用法と他動詞用法において、語彙的な意味に共通性が見られるかどうかを考察し、分類を行う。	金　炯怜 韓国外大 **「 谷崎潤一郎の作品における物語の構造考察—『刺青』『卍』『鍵』を中心に—」** 本稿では、谷崎潤一郎の作品『刺青』(1910)『卍』(1928)『鍵』(1956)における物語(NARRATIVE)の構造をシーモアチャトマン(SEYMOUR CHATMAN, 1928~2015)の理論を中心に考察し、それぞれの要素がどのような関連性のを持っているのかを考える。 谷崎は芥川龍之介との「小説の筋」論争で、「プロット」つまり構造の重要性を強調したにもかかわらず、これをテーマとした研究は殆どなされていない。本稿はこのような点に着目し、上記の作品の構造を照らし合わせ、共通的に見えてくる物語構造の類似性を考える。その上で、それが谷崎文学世界とどのような関連性を持っているのかを明らかにしていく。 このような分析は、今までの谷崎文学の研究とは異なり、内容と表現形式を総括的に考察するもので、新しい作品解釈はもとより、作家の意図をも把握できる一つの谷崎文学の研究方法となることが期待できる。	黄　振維 国立政治大学 **「日本神道と中国思想の比較研究 —三種の神器を象徴とした日本王権思想からの試論—」** 日本神道と密接な関係がある三種の神器は古くから日本の王権の象徴だと見做されている。中国の古典にも既に三種の神器の記事が載っている。もっとも、日本の王権思想といえば、中国古代の「天」の思想に遡らなければならない。「天」の思想は中国王権の展開にも大きな影響があるのである。そして、神道の観点から、日本王権はどのようにとらえるべきかについても究明したいと考える。 本稿では、比較文化・比較思想の方法を通して、日本の神道思想の独特なところを明確にし、日本に属する神道思想特有の点を掘り下げようと考え、研究を行いたい。三種の神器を象徴とした日本王権と古代中国思想との関連性を見出す。そこで、上述した研究方法で比較思想的に神道思想に含まれる中国思想を探りながら、純粋な神道思想も依然として保っていることを意識することができる。
15:45 ｜ 16:15 報告②	劉　徳駿 国立政治大学 **「現代日本語の四字漢語動詞の自他について —内部構成要素と四字漢語動詞の自他との関係を中心に—」** 現代日本語において、特に新聞や雑誌などでは、以下のような四字漢語動詞が頻繁に使われている。 (1)日本は地盤沈下していますか。 (2)日本に永住帰国した孤児はまだ93人しかいない。 (3)同社はすでに中東とアジアへの出張を全面禁止している。 小林(2004)は四字漢語動詞を考察し、(4)～(6)のように分類することができると述べている。 (4)N-VNの四字漢語動詞：地盤沈下する など (5)VN-VNの四字漢語動詞：比較検討する　など (6)ADJ-VNの四字漢語動詞：空中爆発する　など 従来の研究では、四字漢語動詞の内部構造の結合関係に着目しているが、四字漢語動詞の自他とその内部構成要素との関係については触れていない。しかし、実際の用例を調べてみると、四字漢語動詞の類型は多種多様であることがわかり、さらなる研究が必要だと思われる。本研究は、四字漢語動詞の自他と、その内部構成要素との関係を明らかにすることが目的である。	呉 丹 東外大 **「現代日本語のテモラウ文と使役文の異同に関する研究—テモラウ文を中心に—」** 本研究は現代日本語のテモラウ文と使役文の異同を考察するものである。 国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を利用し、テモラウ文を中心に用例を分析しながら、両構文の異同をヴォイス的、意味的、構文的、 待遇的観点から考察した。その結果、テモラウ文と使役文は、動作主が主語の位置に立たない、受益者から動作主への依頼的働きかけがある、などの共通の特徴があることが分かった。しかし、両構文は根本的に異なる構文であり、さまざまな異なる特徴を持っている。テモラウ文の中に単純受影の文がたくさんある点や、テモラウ文の動作主は不問だったり、有情物を想定しにくい場合が可能であるなどの点では、使役文と根本的に異なる。また、動作主を高く待遇する時や動作主への要求的な働きかけを和らげる時は、使役文よりテモラウ文を用いた方が相応しい。	金　容暋 東外大 **「『水中都市』と『第四間氷期』両作品の「革命」」** 『水中都市』や『第四間氷期』はそれぞれ1952年、58年に書かれた作品である。6年の隔たりがある二つの作品は共に水没する社会を描いている。水没する社会という内容は共通している作品であるがいくつかの相違点も目立つ。その中の一つが予言や予言によって触発される革命である。『水中都市』の予言は滞っている現実変革への意志であり、ビジョンである。『水中都市』では予言が外部から与えられて、主人公はそれに従い、最後には予言を完成することを決意することで作品は完結する。しかし『第四間氷期』での予言は、分裂された主人公自身によって発せられる。主人公自身は予言に対して強い乖離感、拒否感を感じており、予言に従って変革される未来を拒み、自分自身の消滅を選ぶ。両作品とも未来への予言が登場し、予言の中に出現する未来は日常とは完全にかけ離れていることは共通している。しかし、その未来への主人公の態度は異なっているのはなぜだろうか。ここでは二つの小説を比較し、作家の6年間の思想の変化から答えを探ってみたい。	梁　昕怡 東外大 **「関一の都市社会政策思想論：大阪住宅貧困問題を中心に」** 大正期において、大阪は「東洋のマンチェスター」と呼ばれ、経済文化的中枢として位置づけられていた。日本第一の商工業大都市の大阪が発展に伴い、失業、貧困などといった都市社会問題が発生していた。1918年から大阪市ではこれらの問題に目を向け、大阪市社会事業を積極的に取り組んできた。その中に、東京高等商業学校（現一橋大学）の社会政策・工業政策研究に注力した教授であった関一（せきはじめ）は大きな役割を担った。1960年代から「関一研究」をはじめ、現在まで資料はすでに800点を超えたのである。本報告では、大大阪時代に「学者市長」と呼ばれた関一に対する「関一研究」はどのようにアプローチされたのかを検討することを目的とする。
16:15 ｜ 16:45 報告③	範　航宇 東外大 **中国語から見た日本語のアスペクト複合動詞「～出す」の意味用法** 影山(2013)は、動詞の後項部分が語彙的アスペクトを表す「アスペクト複合動詞」(e.g.縫い上げる、寝込む、空が澄み切る、読み出す、流れ出る、食べかける)に焦点をあて、日本語は豊富なアスペクト複合動詞体系をもつと論じている。 中国語においても、結果補語や方向補語がV2の位置に置かれ、完結相の語彙的アスペクトを表すという複合動詞体系があるが、日中語の複合動詞の体系は異なっており、国際日本研究センターで製作した「ウェブ日本語・中国語誤用検索サイト」によれば、非用による誤りが中国語母語話者の日本語誤用においても、日本語母語話者の中国語誤用においてもみられる。 本発表では、日本語の複合動詞「～出す」に焦点をあて、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」における「～出す」の使用実態を調査し、中国語との対訳コーパスを作り、「～出す」の意味用法を考える。	呉　佩珣 筑波大 **「日本語移動補助動詞のテイクとテクルの研究」** 日本語移動補助動詞「テイク・テクル」は、話者の視点から遠心的なら「テイク」で、求心的なら「テクル」で表すとされている。さらに、その意味用法について先行研究では、対称的に存在するものとテクルのみに見られる非対称的なものに大きく分けられている。しかし、どちらでもなく、形式上では対称的だが意味上では非対称的というようなものが見られる(例①「調べていけばわかってくるんじゃないかな」、②「赤ちゃんが今の自分の気持ちが楽しいことなんだとわかっていくのです」)。両者とも話し手領域に関わる方向付けであるが、①の「テクル」は心理的なものであるのに対し、②の「テイク」は時間軸に関する変化を表すものである。このような用例は心理的な状態を表す動詞にとりわけ多く存在する。本研究では、上述したようなものに注目し、「テイク・テクル」の選択は時間的と心理的のどちらが優先されるのか、またそれに関わる要因を探る。	高　好眞 東外大 **『憂国』におけるエロティシズム** 「二・二六事件外伝」という輪郭が与えられる『憂国』(「小説中央公論」昭31・1、執筆昭35・10)は、地上で最高に尽くせる〈大義〉の実行とそれを〈見せる〉という意識に充実した描き方に作者の問題意識がみられる作品である。 　『憂国』における死を前提として増してくるエロティシズムは、「禁忌」とそれに対する「違反」を軸とするバタイユのそれと同一の位相をもつが、この夫婦の愛と死はあくまでも〈大義〉に基づく〈儀式〉として行われるため、等価的に融合されている。 　『憂国』は二・二六事件に直接触れず、エロティシズムを全面に描きながら、その主題は別の方に向けられている。〈儀式〉として行われるこの夫婦の愛と死の向かう先にあるのは、〈観念〉としての天皇でありそこで戦後の天皇が相対化されている。このような描き方に六十年代におけるこの作者のイロニー的な眼差しが浮かび上がる	内川　隆文 東外大 **「戦前・戦時日本における電力国家管理の思想—増田次郎の言説を中心に」** 電力国家管理とは電力管理法外三法案の成立(1939)によって五つの電力会社が統合・国営化された歴史的事実を指す。本報告は同政策を巡る思想と実態の両局面を分析し、逓信省を中心とする政策当局者が当初目指した電力の「国家管理」が直面する現実のなかで如何に修正あるいは歪曲されたかを明らかにする。具体的には大同電力の元社長であり、国家管理成立後は日本発送電株式会社初代総裁に就任した増田次郎の言説と行動を分析する。
（司会	降幡　正志	坂本　惠	村尾　誠一	野本　京子
16:55 ｜ 17:25 報告④	車　魯明 東外大 **「無生物主語の他動詞文について」** 本発表は、日本語の中で原則として使用されないと論じられてきた無生物主語の他動詞文、例えば「自動ドアを出ていった彼女を明るい陽射しが包んだ。」のような文を対象にして、大量のデータを調査することによって、これらの無生物主語の他動詞文の特徴を明らかにすることを目的とする。具体的には次の2点について検討する。 ①　主語と目的語にそれぞれどのような名詞が立つのか、これらの名詞によって文の表わす意味が変わるか否か、変わるとしたらどうのように変わるのかについて検討する。 ②　大量のデータによって、無生物名詞の階層を設定し、先行研究で提案されている階層との異同の有無、ならびに先行研究とどう違ってくるのかについて検討する。	蕭　敏媚 国立台湾大 **「文末におけるダロウの使用場面　」** ダロウは、従来推量、確認、疑念という3つの用法があると論じられてきた。しかし、次の例はどの用法なのか。 (1)父：だから何度電話もらってもこの店売る気ありませんから。 電話相手：… 父：あんたもしつこいな。売る気ないっつってんだろ。〔K026〕 (2)母：これはおわび。カボチャでしょう。筑前煮でしょう。それからコロッケ。あんたの好物でしょう。〔H029〕 　3分類において、上記の例は確認の用法に分類されるが、一般的な確認用法とは異なる。確認の用法とは、はっきりしない事を聞き手に話しかけ、答え、反応を求めるものであるが、例(1)では答えを求めるというより一方的に伝えるニュアンスの方が強い。例(2)ではカボチャなどはすでに目の前にあるので、聞き手に確認する必要がない。これゆえ、ダロウの基本的な用法を基に、下位分類を行うため使用場面を考察し収集した例文から、「確かめ」、「列挙」、「不満」、「丁寧」などの場面があることが窺える。	滕　梦澂 東外大 **「二十代の三島由紀夫文学におけるディオニュソス」** 戦後という混乱期に、二十代の三島由紀夫はギリシャに心酔し、『私の遍歴時代』の中で「古典主義」への傾斜を自認している。この「古典主義」はニーチェがディオニュソスを発見してから成立した二元論に基づいたギリシャ解釈であると考える。したがって、三島二十代の文学における最大のモチーフである「古典主義」を理解するために、その中心にあるディオニュソスを解明することは重要な意味を持つと考えられる。本発表は三島二十代の代表作『仮面の告白』、『愛の渇き』、『禁色』を取り上げ、ディオニュソスの仮面劇、大地への帰還、個人の破壊などの側面から、二十代の三島文学におけるディオニュソスを明らかにしたい。	邱 敬雯 東外大 **「严歌苓の小説《小姨多鹤》における中国東北「残留」日本人への描写と認識」** 在米華人女性作家、严歌苓は、1980年にデビューし、短篇小説など多様な作品を発表し、今も中国大陸文壇で活躍している。社会派作家として特に下層社会の女性を主人公とすることで知られている。《小姨多鹤》は2008年に発表された長篇小説である。物語は、日中戦争の最終段階における中国東北地方での日本敗戦を背景として展開される。終戦後、中国にとどまることを余儀なくされた日本人少女多鶴のその後と、彼女を使用人として「買った」張倹の一家の生活とを、描いている。作家によって描写された多鶴の人物像をもとに、作品には「残留」日本人に対してどのような認識があるのかを考察する。ひいては、近代中国東北史と日本人の関係について垣間見たい。
17:25 ｜ 17:55 報告⑤	張　舒鵬 東外大 **「形容詞の種類と連体修飾について」** 日本語の形容詞には1つ主な機能として、名詞を修飾する「連体修飾」用法がある。形容詞の種類（「属性形容詞（【大きい・赤い】など）・「評価形容詞」（【面白い・可哀相な】など）・「感情形容詞」（【うれしい・悲しい】など）によって、連体修飾のあり方が異なる。 　本発表では、種類ごとに使用頻度の高い形容詞を取り上げて、「現代日本語均衡コーパス（BCCWJ）」を用いて、これらの語が連体修飾をする場合における被修飾名詞の種類、修飾関係、形容詞自身の意味について考察する。	路　敏敏 東外大 **「非情物主語の受身文の中日語対照研究—中国語・日本語学習者誤用コーパスの誤用分析」** 日本語の非情物主語ラレ述語構文は、「属性叙述受動文」型、「広義自動詞文」型、「発生状況描写」型、「潜在的受影者」型に区分されるという研究がある。 それに対して、中国語の非情物主語受身文には、受身標識がつかない「意味上の受身文」と言われるタイプや、＜被/叫/让＞などの受身標識がなくてはならないタイプがある。 こうした統語上と意味上の相違から、中日語の非情物受身文の対訳における対応と非対応は、中日語の学習者による受身文についての誤用に結びついている。 本発表では、ひまわりコーパスから得た2,000文近くの日本語非情物主語受身文や、文学作品中の非情物主語の受身文について、その中国語訳が直接に対応しない用例を考察し、さらに、日本語母語話者が書いた中国語学習者コーパスにある受身文誤用例を分析することにより、対象の「被影響性」と、動詞が表現する動作・行為の影響範囲が持つ制約の関係について考察を行う。	劉　雨薇 厦門大学・ISEP **今村栄治「同行者」論～在「満」朝鮮人が見る「満洲国」の風景～** 朝鮮人作家の今村栄治作の『同行者』は1938年に発表された日本語小説である。本作は1931年、主人公の在「満」朝鮮人申重欽が日本人の「同行者」と長春から中国東北部の農村に向かい、途中で「不逞鮮人」の待ち伏せに遭うことを描いた。植民地支配下に置かれていた在「満」朝鮮人が先進国である日本への憧憬と、落後者である母国に対する帰属意識との間で統合が取れずにいた実態を切実に描き出し、被支配民族のアイデンティティー問題を問いかけている。本論は、従来の説に多くを依拠しながらも、未解決の問題に私見を加え、あわせて細部の読み解きを試みるものである。さらに本研究を通じ、20世紀以降朝鮮半島を植民地化し、さらに「満洲国」の捏造に至った日本の近代殖民統制の歴史的記憶を再び喚起したいと思う。	木下　佳奈 東外大 **「黄春明作品にある台湾近現代史の体験と記憶 —《甘庚伯的黄昏》、《莎哟娜啦·再見》、《戰士，乾杯！》から考える—」** 台湾本省人作家の黄春明は1960年代から近年まで台湾文壇で小説・随筆など多様な作品を発表してきた。生活する人間に起こる事件や台湾の社会問題を庶民の視点を通じてとりあげた中短篇で知られる。 　本発表では相互に関連する以下のような内容の三作品を考察する。《甘庚伯的黄昏》はかつてのいわゆる「太平洋戦争」時期の暴力に今もさいなまれる台湾人親子の姿を描く。《莎哟娜啦·再見》では日本統治期の記憶を持つ台湾漢民族とそれに無関心な「戦後」を生きる日本人との複雑な関わりを問題とする。そして《戰士，乾杯！》では、台湾において変遷する複数の近代的統治者によって運命を左右されてきた魯凱（ルカイ）族の在りようを、台湾漢民族の立場から身に染みて受け取る。 　作家あるいは語り手は、こうした現実社会のなかの各々固有の体験者による歴史経験と意識の差異、また価値観の多様性をどう描き、重んじているのかを考察する。
17:55 ｜ 18:25 報告⑥	秦　圭子 東外大 **「訳せる日本語とその実証的評価」** 本稿では、機械翻訳システムを効果的に利用することのできる日本語、機械が訳せる日本語について述べる。 近年、機械翻訳システムは長足の進歩をとげており、プロの翻訳者でも下訳に使えるほどのレベルになっている。しかし、しばしば指摘されるように、いわゆる日本語らしい文をシステムを使ってそのまま翻訳させると、下記のように誤訳や迷訳ができてしまう。 【入力日本語文】「太郎はそのお金でアイスクリームを買った。」 【システムの翻訳結果】"Taro bought ice cream for the money." ここで、入力日本語を次のように書き換えると違う翻訳結果を得ることができる。 【入力日本語文】「太郎はそのお金をアイスクリームに使った。」 【システムの翻訳結果】"Taro spent the money on ice cream." 本研究の目的は、日本語らしい文を機械翻訳システムを使って翻訳しやすい文に変換するためのルールを一般化することで質の高い機械翻訳ができるようにすること、および英語と日本語に内在する翻訳システムを利用する上での違いについて考察するものである。 具体的には、ビジネス分野を取り上げて、当該分野の英和対訳本を用いて、翻訳者の訳文と機械の訳文を比較する。訳せる日本語表現の技法を先行研究(*1)を参照して、その機械が訳せる日本語の実証実験の成果を発表し、日本語から英語への翻訳結果が良くなっていること、そして、変換規則の機械システムのための対照言語学的な分析を行う。 *1 http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/	チャン　ティ ミー 東外大 **「日越双方向逐次・同時通訳における明示化方略」** 本研究は日越双方向逐次・同時通訳における明示化方略に関する研究である。実験で得た音声データを文字化し、10種類に分類した後、分析・考察を行った。その結果、次の5点が明らかになった。①逐次通訳方向別の比較で使用傾向に相違があるのは「省略の復元」、「授受表現の視点転換」、「固有名詞の明示化」である。②同時通訳方向別の比較で使用傾向に相違があるのは「省略の復元」、「授受表現の視点転換」、「固有名詞の明示化」と「語彙の反復」である。③日本語からベトナム語への通訳方式別の比較で使用傾向に相違があるのは「長文の小分け」、「情報の追加」である。④ベトナム語から日本語への通訳方式別の比較で使用傾向に相違が見られない。⑤①～④の差の原因は言語の組み合わせ、通訳方式の特徴及び通訳者に内在する要素である。 キーワード：日越通訳、明示化方略、逐次通訳、同時通訳 Japanese Vietnamese　Interpretation, Explicitation Strategies, Consecutive Interpretation, Simultaneous Interpretation	呉　孟欣 開南大学 **「「見る」と「看」についての日中対照研究 」** 本発表は、日本語の「見る」と中国語の「看」を比較する。日本語も中国語も漢字を使っているので、中国語母語話者にとって、学習しやすいと思われるが、同じ漢字で意味が違う場合もある。そのため、両言語の漢字の差異に注意するべきだと考えられる。例えば、日本語の「見る」は中国語では「見」ではなく「看」である。しかし、中国語では「看漫畫」という表現であるのに、日本語は「漫画を見る」という表現ではない。つまり、同じ動作を表す「見る」と「看」だが、異なる部分もあると考えられる。そこで、本発表は、「見る」と「看」を比較することにした。このことによって、同じ動作が両言語においてそれぞれどのように表現されているのか、分析し、「見る」と「看」の差異を明らかにすることが目的である。	

サマースクール2016　7月20日（水）

7月20日 院生発表会

会場	103室	104室	105室	106室
	R1（日本語）	R2（日本語）	R3（文学）	R4（社会・歴史）
司会	坂本　惠	鈴木　美加	野本　京子	春名　展生
15:15 ｜ 15:45 報告①	崔　幽美 韓国外大 **「行為要求における「非明示表現」の様相」** 部屋の窓を開けて欲しい時、「ちょっと窓を開けてくれる？」と言わずに「この部屋ちょっと暑いね」とだけ言って周囲の反応を見ることがある。字義通りに受け取れば、要求を行っているとはいえないが、実生活ではこのようなコミュニケーションもよく見受けられる。 話し手が聞き手に「非明示的現」を用いて行為要求をする際、どのような表現を選び、何を伝達しているのかについて考察するために、映画やドラマのシナリオを研究対象とし、そこから抽出した用例を四つに分類した。 ①話し手の状況…話し手の心理的状態や話し手の状況について言及するもの ②聞き手の状況…聞き手の心理的状態や聞き手の状況について言及するもの ③周辺的状況…周辺的な状況や情報を言及するもの ④共有状況…お互いが共有している情報について言及するもの 本発表では、これらの分類をもとに「非明示的表現」がどのような意図で使用されているのかについて分析・考察していく。	楊　玲 北京外大 **「コーパスを用いた身体部位詞「頭」のメタファー　意味拡張に対する一考察」** 同じ身体構造を持つ人間がいかにしてこの世界を認知するのか、その背後に隠される人間の認知能力の一般性への探究は認知言語学の課題とされてきた。言語能力と同じように、認知能力も人間としての、生まれながら、他の動物と区別がつき、特別かつ重要な能力の一つである。人間はまず自分の日常生活に近いものから、現有の知識を生かしながら、簡単なものから、複雑なものへと理解を深めるようになると思われる。それゆえ、身体部位は人間の認知の基盤とされ、それに対する研究は認知能力への探究の出発点ともいえよう。 先行研究では、身体部位詞についての認知的考察はただ内省的な角度から、意味拡張の動機づけへの研究が多数を占めているのは現状で、身体部位詞「頭」の全体図を把握するために、コーパス言語学の科学的分析方法を生かしながら、今までの研究の不足や不十分なところを改善しようと考えられる。	田 尚文 国立台湾大 **三島文学のミソジニー−『仮面の告白』を中心に** 社会学者、アラン・G・ジョンソン によれば、ミソジニー（女ぎらいとも）はある種の「文化的態度」とある。その態度とは、女性が女性であるというだけで、強い嫌悪（あるいは憎しみ）を持つこと、とある。下記は原文である。 Misogyny .... is a central part of sexist prejudice and ideology and, as such, is an important basis for the oppression of females in male-dominated societies. Misogyny is manifested in many different ways, from jokes to pornography to violence to the self-contempt women may be taught to feel toward their own bodies 筆者訳：ミソジニーは性差別とイデオロギーと家父長制に基づいて生じた女性に対する抑圧である。ミソジニーは色々な形式がある。下ネタや風俗関連営業、更には女性が自分の身体への侮蔑を教えられることまで、すべてミソジニーだ。 ところが、日本近現代文学の流れにもたくさんのミソジニー現象が捉えられた。上野千鶴子のミソジニー研究で取り上げられることの多い日本近現代男性作家は、ミソジニーの状況を犯した。例をあげれば、永井荷風、吉行淳之介、島尾敏雄、谷崎潤一郎、三島由紀夫、更に最近では村上春樹も、ミソジニーの状況があると指摘された。その中、三島由紀夫に対して上野氏はこのような結論 を出した。 上野：セクシュアリティは、本能というより社会的な条件で決まりますから、真正ホモか仮性ホモかなんていう問い自体は本当いうとまったくナンセンスです。それが許容される社会条件に自分がたまたまめぐりあって自己発見するまでは、自分が本当にホモかどうかもわからない人もいるでしょう？彼は中途半場なホモとして生きるしかないような時代に生まれた。だから、彼は男を愛しながら、女に性欲を感じてしまう自分を一。 富岡：自分がいやでしょう。 上野：なんでこんなに汚れたものに自分が魅かれねばならぬのか。それがウーマン・ヘイティングになっている。 この引用によると、三島由紀夫のミソジニーはホモとしての身分と関係が深いとも言えるであろう。『男流文学論』の中で、三島の女ぎらい作品として指摘された作品は三冊 もあるが、三島由紀夫自身の経験ともっとも繋がりの深い作品はやはり、『仮面の告白』である。このため本稿では、『仮面の告白』を中心に分析したい。つまり、『仮面の告白』の女ぎらい描写を中心に分析し、三島文学のミソジニー特徴を探求したい。	吉岡　祥平 東外大 **「日本アニメーション表現様式史―1990年代を中心点として」** 日本のアニメーションに関する諸先行研究は、実証的な研究か、文学理論の応用かといった次元に留まってきた。通史的に行われた研究は、作品タイトルの羅列や、著者の恣意的な選択によって並べられたものであり、必然性を欠いた研究が多い。 本発表で目指すのは、日本のアニメーションを美術史、視覚文化史的に捉え、日本のアニメーションの変化を表現の様式及び視覚という観点から大きく捉えることである。結果的に日本のアニメーションの表現の歴史を二分する事になる。アニメーションはリアリティの存在しない記号的表現から、リアリティを求める方向へと変化してきたという歴史をを経ていると結論する。 方法論は2つに分けられる。第一に、表現の特性を確定する。第二に、その表現はなぜ生まれたのかということを論述する。具体的に言えば、1990年代の「リアリティのある」作品を中心に捉え、それと対照する形でそれ以前の作品の特徴を確定する。
15:45 ｜ 16:15 報告②	嶋原　耕一 東外大 **「初対面雑談会話における「日本人／外国人」及び「日本人／〇〇人」成員カテゴリーについて」** 会話の話題展開において、話者は様々なカテゴリーで自己と相手を規定しうる。本研究では初対面雑談会話を32会話分析し、「日本人／外国人」及び「日本人／〇〇人」という国籍カテゴリーがどのような場面で、非母語話者によるどのような発話をきっかけに前景化するのか、明らかにすることを目的とした。国籍カテゴリーに注目したのは、それが特に接触場面で前景化しやすく、ときに「対等な関係」形成を阻むと、先行研究で指摘されているからである。分析の結果、非母語話者による国籍カテゴリーの前景化場面として、「国と関連付けるとき」「一般化するとき」「非母語話者であることを強調するとき」という三つの場面を提示した。さらに各場面で、非母語話者が母語話者との距離の短縮や相手への配慮を意図していることを、明らかにした。	林　希晋 韓国外大 **「韓日両国の新語の造語法に関する一考察」** 毎日のように創られたり、なくなったりする新語は各国の言語習慣を如実に表している。本発表では韓国と日本の新語について造語法を中心に考察し、両言語の傾向を明らかにすることを目的とする。 まず、日本語と韓国語の新語を考察するに当たって、造語法の基準を立てる必要があり、先行研究を通してそれぞれの国で既に分類されている造語法について検討した。それを基に借用、複合、派生、省略など、両国で最も共通的に現れる造語法を抽出し、両国語の新語を分類した。この分類範囲に入らない新語については特殊な造語法として分類した。 そして造語法の発生原因について時代的·社会的背景から見ることで、両国新語の傾向を分析した。造語法と社会現象の相関関係を探ることで、文化の違いが新語の形成にも影響を及ぼしていることが確認できると期待される。	ファテメ　ボルジェルディー 東外大 **「夏目漱石の作品における女性像を通しての近代的自我の表現」** 夏目漱石の作品『草枕』、『夢十野』に現れた「森の女」や「夢の女」としの女性から、彼の三部作『三四郎』『それから』『門』に現れる、「友人や他人の嫁に行く恋人」としての女性とそれに関わる「三角関係の問題」にかけて、漱石の作品に表現されている「近代的自我の目覚め」とそれがもたらす「個人の自由の求め」を、上記された女性像の変化を明治時代の流れで分析し、葛藤した二分化する漱石自身の内面世界を彼がどのように女性像を媒介して描いたのかに執着する。最後に漱石はどのようにその問題を「私の個人主義」や「則天去私の伝説」で解決しようとしているのかを述べる。	陸　子惠 シンガポール国立大 **「二・五次元舞台男性俳優のアイドル性」** 本発表では、ライブ・スペクタクル「NARUTOーナルトー」を通って、二・五次元という漫画やアニメを原作とする舞台の男性俳優のアイドル性と肉体の表現の仕方を考えたい。二・五次元舞台は本来二次元キャラクターを三次元舞台でパフォーマンスによって、観客、或いは原作のファン達の妄想を叶えようとして目指すものである。従って、キャラクターとの関連性を作り、そして現れた未熟な少年性で観客を引きつけるという過程、および性別性を含める肉体を注目し、二・五次元舞台をポップカルチャーの一部分として分析して見たい。
16:15 ｜ 16:45 報告③	王　秋霞 北京大 **「含意的否定のイメージスキーマ　―日本語の否定動詞「守るをめぐって」」** 含意的否定(implicit negation)とは一般的な否定意味を表す分析的形式、例えば、「ない」、「ん」などの否定標識を用言にくっつける形式と異なって、否定詞を用いずに総合的な形式で否定を表すものである。本研究は日本語の動詞「守る」の語彙概念構造を通して、否定的な意味素性があって、「守る」は含意的意味を持っている否定動詞であることを論証する。さらに、「～は～から～を守る」という構文形式に適する「守る」は複雑述語として、下位事象のタイプによって、「起動的影響」「直接影響」及び「間接影響」の三種に分かれている。それぞれ中国語の類似的な表現と比較しながら、その項構造と語彙概念構造を詳しく説明する。そして、含意的否定意味を持っている「守る」は否定形式のほうが厳しく制限されている。それはその対義語の「防ぐ」で「語義溢出」（semantic　overflow）をした結果であろうと推論できる。それに対して、中国語の類似的な現象は否定余剰という方法で表すことを説明する。	丁　文博 北京外大 **「日本語の音声形態における有対動詞の派生関係」** 日本語の自・他動詞に関する先行文献には、日本語の多数の動詞が「(窓が)あく」、「(窓を)あける」のように、形態的・意味的にある程度の共通性を保ちながら、自動詞と他動詞に分かれていることは、学界に認められているが、音声形態の派生関係(佐久間1936、奥津1967など)についての意見がかなり分岐している。 小論は、音韻における日本語の自動詞と他動詞の区別・対応や相互間の派生関係を研究するものである。主に音声形態における有対動詞（ペアになる自動詞と他動詞）の対応関係と分別基準について、「共時的」分析を研究の目標とする。考察方法として、日本の国語学の先行文献を参照しつつも、実証的にこれらの対応する自・他動詞を収集したあと、音声形態に基づいて自他の対応を分類し、その音声内容を分析しかつ一般化する。	ディアン　アンニサヌル　リダ 東外大 **「村上春樹のコミットメント：『アンダーグラウンド』と『神の子どもたちはみな踊る』の研究」** 1995年は近代日本にとって大事な年だと考えられる。その年に二つの大事件があり、すなわち1995年1月17日に起こった阪神淡路大震災と1995年3月20日に起こった東京地下鉄サリン事件である。本研究はその二つの大事件と関連する村上春樹のノンフィクション『アンダーグラウンド』と短編集『神の子どもたちはみな踊る』を通して村上春樹のコミットメントを分析した。村上春樹は日本国籍であるが長年日本から離れており、海外で暮らしていた。しかしこの二つ大事件によって、村上は日本人としてのアイデンティティーを再び意識した。それだけではなく、『アンダーグラウンド』と『神の子どもたちはみな踊る』を書くことによって、村上春樹は2つのことへのコミットメントを見せた。それはすなわち「日本人としての社会的責任感」へのコミットメントと彼の「小説家という職業」へのコミットメントである。	戴　佩如 台湾東海大 **「318立法院占領運動」のジェンダー規範** 「318立法院占領運動」は今までの台湾社会運動の中で、占領がもっとも長く規模の大きな運動だ。年齢、職業、性別など背景の違う運動参加者たちによって支えられた。彼らはある意味で密閉された立法院議場で自分たちの生活／文化を作り上げていったわけだが、私は彼らのジェンダー規範に注目し、その生成過程と変化を、参加者へのインタビューとメディア報道を材料に跡付けてみた。
（司会）	伊集院　郁子	鈴木　智美	橋本　雄一	野本　京子
16:55 ｜ 17:25 報告④	佐々木　瑛代 国際基督教大 **「敬語表現とその学習に関する日本語学習者の意識調査」** 「日本語を学習している英語母語話者が日本語の敬語表現についてどのような知識を持ち、敬語と学習をどのように捉え、実際に運用しているのかといった点について意識調査を行った。本発表はその結果と考察である」	梁　乃允 韓国中央大 **「韓国人学習者のノダ形式の使用条件」** 韓国語を母語とする日本語学習者が「ノダ」形式を多用することが指摘されており、「一んですよ。一んですよ。」と連続して使用し、くどい印象を与えてしまうケースも少なくない。本研究では韓国語を母語とする日本語学習者のフォーマルな談話資料を用い、述語の種類とノダ形式の使用様相に注目して、ノダ形式の使用条件について考察する。 資料として韓国の大学で日本語を学ぶ学習者と初対面の日本人教師との談話を用いる。談話の収集は、2010年11月1日(月)と11月8日(月)の両日に行われた。女子学生2名が1組になり、日本人との日本語による対話形式で行われた(16談話、各16分～30分、計360分)。学習者談話を分析した結果は、次の3点にまとめられる。 (1)ノダ形式が早い時期から用いられ、活用の簡単な名詞述語文よりも、相対的に活用の難しい動詞述語文と親和性がある。 (2)ノダ形式の不適切な使用も見られるが、共有の情報や日本語らしさの追求といった順機能のみならず誤解や摩擦の原因になるといった逆機能を併せ持つものである。 (3)学習者がノダ形式を多用することについては、前接項目の形態的手続きの難易度とは異なる他の理由があると思われ、それについては丁寧体における簡略化が考えられる。 以上、学習者の使用するノダ形式は、本来の意味から離れ、日本語の丁寧体を作り出す道具として機能する（こともある）ということが明らかになった。社会言語能力が文法能力を	曺　喜眞 東外大 **「「和歌」と「時調」における「恋歌」の対比研究」** 本発表は、日本の「和歌」と朝鮮の古詩歌「時調（シジョ）」における「恋歌」を、双方に影響を与えた中国文学にも目を配り対比検討を行うものである。「和歌」と「時調」には多くの「恋歌」が詠まれ様々な場で重要な役割を担ってきた。特に、「時調」の「恋歌」の中でその数こそは少ないが、大きい存在感を示しているのが、「妓生」と呼ばれていた女性たちの作品である。彼女たちを中心とした女流歌人の「恋歌」の対比や、臣下の「恋君歌」などに注目し、両詩歌における「恋歌」の叙情的特質を文化的・歴史的背景も含め考察を行う。	小美濃　彰 東外大 **「2020年東京オリンピックに関する研究への導入」** 2013年9月7日、ブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会(IOC)総会において2020年夏季オリンピックの開催都市が東京に決定された。東京が2020年大会の開催都市への立候補を表明したのは東北地方太平洋沖大地震、いわゆる東日本大震災のおよそ1か月後の2011年4月12日であった。その2020年東京大会に関して、「東京オリンピックの開催は、日本が国力を回復する絶好の機会」 あるいは「二〇二〇年東京・〈棄民五輪〉にようこそ」 など五輪推進から返上まで議論を取り上げるにはおそらくキリが無い。報告では、東京オリンピックが「常軌を逸した肯定性として姿を現す」 スペクタクルとして、都市における言論を含むさまざまな運動を包摂していく可能性を見据えつつ、2012年のロンドン大会が開催都市においてどのような機能を発揮したかに関するPhil Cohen(2013)の研究を導入し、今後のオリンピック批判研究の組み立て方に関して議論したい。 市川宏雄「東京オリンピック開催は、国力回復の起爆剤」M' s Opinion, 2013年 URL: http://www.meiji.net/opinion/economy/vol19_hiroo-ichikawa （最終アクセス日：2016.05.06） 天野恵一「二〇二〇年東京・〈棄民五輪〉にようこそ」, 『インパクション 194』, pp92-111, インパクト出版会, 2014年 ギー・ドゥボール（著）, 木下誠（訳）『スペクタクルの社会』, ちくま学芸文庫, 2013年（引
17:25 ｜ 17:55 報告⑤	ハルナザロフ　マムルジョン 東外大 **「親族内における呼称について：ウズベク語と日本語の対照的観点から」** 本研究では、アンケート調査に基づいて、ウズベク語と日本語における親族間の呼称表現の使い分けの現状と特徴を分析・検討し、両言語の呼称表現の類似点と相違点を明らかにしようと試みた。具体的には、両言語において、親族に対して使われる呼称表現の選択基準や種類、相手との距離や年齢の上下、相手の社会的地位など諸ファクターとの関わりを詳細に検証した。 その結果、それぞれの言語の呼称表現の使用において、共通に認められる部分と全く違う部分が存在していることが確認できた。 なお、今回はウズベク語の呼称表現の実態調査とその結果の検討が中心であり、日本語については先行研究の調査結果から得た例の検討に留まった。	パーチャリー　ウィワッタナパタピー タマサート大 **「部首とマインドマップを活用した漢字学習の実践研究」** 本研究は部首の意味と漢字を結びつけることと、マインドマップで関連のある漢字を覚えることに着目した。タイ人初中級日本語学習者18名を対象に部首「扌」を使う漢字と語彙をマップに書き込ませる実験を2回実施した。辞書ツールの使用を許した。その結果、1）時間内に平均約13語の漢字が書きこまれている、2）思いついた語彙よりも辞書で調べた語彙のほうが多い、3）難しい漢語を書き込んでいるが、例文作成の時は簡単な和語で作成する傾向がある。被験者の漢語の意味用法の理解が深まっていないということが明らかになった。質問紙調査では、「部首とマインドマップの手法は面白く、漢字を覚える意識が高まったが、語彙力がまだ不足しているため、あまり積極的に取り組む気持ちになれない」という意見があった。部首とマインドマップの学習法は漢字に対する学習者の興味・関心を喚起することはできるが、学習者の漢字力を強化するにはさらなる工夫が必要だと示唆された。 キーワード：マインドマップ　部首　非漢字圏　漢字学習	沈　姝彦 東外大 **村上春樹作品における人物の受動性について** 村上春樹は1979年に『風の歌を聴け』で、デビューした。デビューして以来、日本だけでなく、海外でも高い人気を博した。しかし、彼に対する評価はずっと賛否両論がある。議論の一つは彼の創った人物の受動的な姿勢である。この創作の特徴は多くの評論家や作家から認められ、また、批判されている。村上春樹の作品に登場した人物に現れたいくつかの受動性があるが、本発表は村上春樹の前期の作品群を取り上げ、作中人物の現れた受動性について分析することを試み、村上が受動的な人物を設定して、読者に何を伝えたいかを究明したい。	林　恭平 東外大 **「19世紀半ばの都市における個別町の社会構造」** 都市の民衆が、近世・近代のなかでどのような社会構造をもって生活を営んでいたか。これを一次史料を基本として、特定の地域に即して解明することが、本研究の課題である。その際着目するのは、近世都市の基礎的単位である個別町である。個別町は、本源的には、一人一人が一つの家屋敷をもつというフラットな構造であった。しかし、18世紀に至ると、その内部構造は複雑さを増していく。これについてはすでに豊かな研究蓄積があるのだが、19世紀、特に幕末から明治期という時代の変わり目におけるその構造の研究はあまり多くはない。都市民衆にとって、近代とはどのような意味を持つか。これを、大坂の御池通五丁目という地域に即して解明を試みる。

サマースクール2016　7月19日(火)ー7月20日(水)　研究講義棟1階　103、104、105、106室

7月19日（火） 院生発表会

	103室	104室	105室	106室
	R1（日本語）	R2（日本語）	R3（文学）	R4（社会・歴史）
司会	望月 圭子	谷口 龍子	村尾 誠一	友常 勉
15:15 | 15:45	ローレンス　ニューベリーペイトン 東外大 **「日本語母語話者の誤用からみた「の」と対応する英語の前置詞」**	南　紅花 東外大 **「現代日本語の自他両用動詞について―和語を中心に―」**	金　婀怜 韓国外大 **「 谷崎潤一郎の作品における物語の構造考察 ―『刺青』『卍』『鍵』を中心に―」**	黄　振維 国立政治大学 **「日本神道と中国思想の比較研究―三種の神器を象徴とした日本王権思想からの試論―」**
15:45 | 16:15	劉　徳駿 国立政治大学 **「現代日本語の四字漢語動詞の自他について―内部構成要素と四字漢語動詞の自他との関係を中心に―」**	呉 丹 東外大 **「現代日本語のテモラウ文と使役文の異同に関する研究―テモラウ文を中心に―」**	金　容瞖 東外大 **「『水中都市』と『第四間氷期』両作品の「革命」」**	梁　昕怡 東外大 **「関一の都市社会政策思想論：大阪住宅救済問題を中心に」**
16:15 | 16:45	範　航宇 東外大 **中国語から見た日本語のアスペクト複合動詞「～出す」の意味用法**	呉　佩珣 筑波大 **「日本語移動補助動詞のテイクとテクルの研究」**	高　好眞 東外大 **『憂国』におけるエロティシズム**	内川　隆文 東外大 **「戦前・戦時日本における電力国家管理の思想―増田次郎の言説を中心に」**
司会	降幡 正志	坂本 惠	村尾 誠一	野本 京子
16:55 | 17:25	車　魯明 東外大 **「無生物主語の他動詞文について」**	蕭　敏媚 国立台湾大 **「文末におけるダロウの使用場面　」**	滕　梦溦 東外大 **「二十代の三島由紀夫文学におけるディオニュソス」**	邱 敬雯 東外大 **「严歌苓の小説《小姨多鹤》における中国東北「残留」日本人への描写と認識」**
17:25 | 17:55	張　舒鵬 東外大 **「形容詞の種類と連体修飾について」**	路　敏敏 東外大 **「非情物主語の受身文の中日語対照研究―中国語・日本語学習者誤用コーパスの誤用分析」**	劉　雨薇 厦門大学・ISEP **今村栄治「同行者」論～在「満」朝鮮人が見る「満洲国」の風景～**	木下　佳奈 東外大 **「黄春明作品にある台湾近現代史の体験と記憶―《甘庚伯的黄昏》、《莎哟娜啦·再見》、《戰士，乾杯！》から考える―」**
17:55 | 18:25	秦　圭子 東外大 **「訳せる日本語とその実証的評価」**	チャン　ティ　ミー 東外大 **「日越双方向逐次・同時通訳における明示化方略」**	呉　孟欣 開南大学 **「「見る」と「看」についての日中対照研究 」**	

7月20日（水）院生発表会

	103室	104室	105室	106室
	R1（日本語）	R2（日本語）	R3（文学）	R4（社会・歴史）
司会	坂本 惠	鈴木 美加	野本 京子	春名 展生
15:15 | 15:45	崔　幽美 韓国外大 **「行為要求における「非明示表現」の様相」**	楊　玲 北京外大 **「コーパスを用いた身体部位詞「頭」のメタファー　意味拡張に対する一考察」**	田 尚文 国立台湾大 **三島文学のミソジニー―『仮面の告白』を中心に**	吉岡　祥平 東外大 **「日本アニメーション表現様式史―1990年代を中心点として」**
15:45 | 16:15	嶋原　耕一 東外大 **「初対面雑談会話における「日本人／外国人」及び「日本人／〇〇人」成員カテゴリーについて」**	林　希晋 韓国外大 **「韓日両国の新語の造語法についての対照考察」**	ファテメ　ボルジェルディー 東外大 **「夏目漱石の作品における女性像を通しての近代的自我の表現」**	陸　子惠 シンガポール国立大 **「二・五次元舞台男性俳優のアイドル性」**
16:15 | 16:45	王　秋霞 北京大 **「含意的否定のイメージスキーマ　―日本語の否定動詞「守るをめぐって」」**	丁　文博 北京外大 **「日本語の音声形態における有対動詞の派生関係」**	ディアン　アンニサヌル　リダ 東外大 **「村上春樹のコミットメント：『アンダーグラウンド』と『神の子どもたちはみな踊る』の研究」**	戴　佩如 台湾東海大 **「318立法院占領運動」のジェンダー規範**
司会	伊集院 郁子	鈴木 智美	橋本 雄一	野本 京子
16:55 | 17:25	佐々木　瑛代 国際基督教大 **「敬語表現とその学習に関する日本語学習者の意識調査」**	梁　乃允 韓国中央大 **「韓国人学習者のノダ形式の使用条件」**	曺　喜眞 東外大 **「「和歌」と「時調」における「恋歌」の対比研究」**	小美濃　彰 東外大 **「2020年東京オリンピックに関する研究への導入」**
17:25 | 17:55	ハルナザロフ　マムルジョン 東外大 **「親族内における呼称について：ウズベク語と日本語の対照的観点から」**	パーチャリー　ウィワッタナパタピー タマサート大 **「部首とマインドマップを活用した漢字学習の実践研究」**	沈　姝彦 東外大 **村上春樹作品における人物の受動性について**	林　恭平 東外大 **「１９世紀半ばの都市における個別町の社会構造」**